

私の行くべき道

「わたしはあなたがたに悟りを与え。行くべき道を教えよう。わたしはあなたがたに目を留めて、助言を与えよう。」

(詩篇 32 篇 8 節)

「私たち人間は、何の目的も持たずに苦しい毎日を送り、ただつまづきながら、長い年月をかけて、人生の旅路を歩ん



で行くに過ぎないのでしょうか？” 私たちの一生ということについて、多くの人はこのように考えているようです。しかし神は、私たちの人生には神の御計画があり、私たちは主の御手に導かれて生きているのだと、はっきりおさとしになりました。

「わたしはあなたがたに悟りを与え。行くべき道を教えよう。わたしはあなたがたに目を留めて、助言を与えよう。」

生活に伴う苦しみが大きければ大きいほど、またその悩みが深ければ深いほど、私たちは精神の無意味な動揺を静め、思いわずらう心を落ち着かせて、じつとこの御言葉に耳を傾けるべきではないでしょうか。私たちが心から信じ切って、永遠に変わらぬ神に頼ることにより、たとえ身は病床にあっても、苦難の中にあっても、正しい道を踏み誤らずに、歩んで行くことができるのです。

それでは、神はどのようにして、私たちを導いてくださるのでしょうか。「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」（詩篇 119 篇 105 節）と聖書に書かれているように、私たちを救いに至る道に導いてくださるのは、神の御言葉なのです。神はその御言葉の中で、一羽のすずめの動きさえ、神の御意志によるのであると言

われました。そして神にとっては、多数のす
ずめより一人の人間の方が、はるかに大切
なのです。

一羽のすずめにさえ、御心を配ってい
らっしゃる神が、どれほど深い愛をもつて、私
たちを見守っていてくださるかは、人間に
は想像もつかないことでしょう。それほどま
でに愛してくださっていればこそ、神は御
ひとり子イエスを十字架につけて、人間を
罪から救ってくださったのです。

私たちに罪の赦しと救いをお与えにな
った神は、今この瞬間にも、苦しみの中に
いる私たちと一緒にいてくださるのです。恵
み深い全能の神は、その御心のままに最
上の方法をもって、私たちを救いの道に導
いてくださるのです。私たちが単なる健康
や金銭が最上のものではないことを知り、
すべてを神にまかせ、神に導かれつつ生
きて行くことによって、私たちは苦難の毎日
を、明るく有意義に送ることができます。

祈　　り

主なる神さま、あなたは大きい愛をもって私たちがあがない、私に永遠の命をお与えくださいました。今、私はあなたのみ恵みといつくしみに心より感謝し、あなたの貴い御名を賛美いたします。どうか私の数多い罪と、愚かな行いとを赦し、あなたの限りない恵みの光の中に歩ませてください。

とりなしの福音によって、私にますます御姿をはっきりとお示してください。

今日も私を守り、わざわいを取り除いてください。今夜も安らかな眠りをもって、私を護ってください。病と悩みにあって震えおののく魂を鎮めて、乱れる心を和らげててください。

私たちの救い主、イエス・キリストの貴い御名によってお祈りいたします。アーメン。

主を待つ者よ、^{お お}雄々しくせよ

「雄々しくあれ。心を強くせよ。

すべて主を待ち望む者よ。」

(詩篇 31 篇 24 節)



現代においては、生きるということはやさしいことではありません。まして病を得て、何年間も病床を離れることが

出来ず、幾度も手術を受けねばならないなど、さまざまな苦難や危険に直面した時に、私たちには並々ならぬ勇気が必要です。そのような時に、かよわい自分を顧みると、ただ一人でそれに耐え抜いて生きて行けるだろうか、という不安で心が一杯になってしまいます。

けれども私たちは、ただ一人でその苦難に立ち向かわねばならないのではありません

ん。聖書の御言葉を通して、イエスは常に私たちの心と共にいてくださり、私たちを力づけてくださると約束なさっているのです。この事実を考えただけでも、私たちは毎日が希望と喜びの光で、次第に輝きを増してくるのを、感じる事が出来るのではないのでしょうか。私たちが神を信じ、神が全能の御手をもって私たちにお触れになるとき、新しい力が与えられ、いらだつ神経が和らげられ、真の平安によって私たちの心は満たされるのです。

この心や体の痛みも、やはり主の御手の中にあるのだということを知った時、以前の精神的な暗黒の日々に比べて、今日一日が何と喜ばしく、憂いの夜が何と短く感じられることでしょうか。もちろん私たち人間は、人生の行く末はおろか、今日明日の自らの身の上さえ知ることはできません。しかし、神の御心のままに生きているという自覚によって、私たちの心に希望と自信とが芽ばえて来さえすれば、たとえ身は苦難のただ

中であっても、はっきり将来を見つめ、信念を持って生きて行くことができます。

何もかも不安定で信じ難い世の中におりながら、ただ一つ確実なことがあります。それは明日になれば、また神はそこにもおいでになって、愛と恵みをもって私たちを迎え、明日一日生きるために、必要な力を必ず与えてくださるということです。イエスによって神の聖なる家の子とされた私たちの罪を、神は日ごとにお赦しくださり、私たちに神を心から信じて、その御約束をそのまま受け入れるような、強い信仰を持たせてくださるのです。神は、私たちに御約束なされたことを必ずお守りになる、「契約の神」です。

恵み深き神の愛の御手の中に生き、神の家族の一員である私たちは、たとえ病床や苦難の中であっても、人生の不安の念をいだかず、すべてにまさる勇気をもって、毎日を生き抜くことができます。

祈　　り

あなたの聖なる家族とされた子供を、恵み深くお守りくださる、キリストにある父なる神さま。あなたが与えてくださる海辺の砂のような多くのみ恵みを、ほめたたえます。

あなたは私たちの生命をたもち、苦しみのうちにある私を慰め、罪の重荷を取り去り、救いの御子によって私を救ってくださいました。主よ、来る日もあなたの祝福を豊かにそそぎ、貧しい私の感謝をお受けください。私はあなたの恵みと助けとを良く知っています。これらの願いと感謝を、イエスの御名によって聞き入れてください。

アーメン。

私をすべての恐れより

「私が主を求めると、
主は答えてくださった。
私をすべての恐怖から
救い出してくださいました。」
(詩篇 34 篇 4 節)

健康を失って、身を
病床に横たえていな
ければならない私た
ちの憂いの心……
頼るべき何ものをも持
たない憂い、うち続く
苦難に対する憂い、
眠られぬ夜の憂い、そして将来の身の上を
思う時の憂い……等々、なんと私たちの
憂いはたくさんあることでしょう。神様はこの
憂いに満ちた私たちを愛し、助けてくださ
るのでしょいか。それとも、これほどまでに苦
難が続くのは、神が私たちを御見捨てにな
ったからではないでしょいか。今私たちは神



の御前にぬかずいて、罪の赦しと救いとを、
お願いしても良いのでしょうか。

この詩篇を書いた詩人の心の中にも、これと同じような数々の疑いが生じました。けれども、彼はそれによって絶望はしませんでした。彼は自ら、すべての憂いを取り除く道を見出したと、感謝に満ちた心で言っております。彼は祈ることによって神の御導きを求め、神はそれをお聞き入れになりました。彼は神の御手によって、すべての憂いから救い出されたのです。

私たちもこの詩人と同じようにして、すべての憂いと不安とに、打ち勝つことができるわけです。神を求め、心を静かにして御前に祈るとき、私たちは大いなる神の御翼(みつばさ)に守られ、永遠に神の御手の中に生きていることを、知ることができるでしょう。神は私たちが罪に滅びることなく、永遠の命に至ることを心から望んでいらっしゃるのです。

この事実を私たちは、自ら十字架上の死

をお選びになったイエス・キリストによって
知ることができます。神は私たち人間に、こ
の短くはかない地球上の人生だけでなく、
永遠の生命を得させてくださるために、最
愛の御ひとり子イエスをも、惜しむことなく
お与えになりました。そのことによって罪を
赦された私たちが、今苦しみの中にあって、
御前にぬかずき、心からの祈りをささげると
き、神は私たちの魂に、真の平安を与えて
くださるのです。

このように、全能の神を信ずることによっ
てのみ、私たちのさまざまな心の憂いは、
すべて取り除かれるのです。この憂いに満
ちた病床のかたわらにも、また生活の苦し
みに打ちひしがれた者のそばにも神は常
においでになり、やがて夜が訪れて私たち
がうとうとまどろみ、次第に深い眠りにおち
て快く休んでいる間にも、神は一刻も休む
ことなく、私たちを見守っていてくださるの
です。

祈　　り

天の父なる神さま、あなたの御恵みと深い御心によって、私たちは生き、動き、存在しています。この移りゆく世にあって、御力により私を支えてください。私の将来にどのような事が待ち受けているのか分かりません。けれども、あなたの愛の御光は常に私の心の中に輝き続けることを、確信致します。御恵みをもって、苦しみのうちにある私に、この苦しみに耐え忍ぶ力を与え、信仰と希望とを豊かにあふれさせ、この日も勇気をもって生き抜くことができるように力づけてください。

どうか私の苦悩を和げてください。心に平安を与え、イエス・キリストによる祝福をもって、私を祝してください。　アーメン。

みつばさ
主の御翼のかげで

「神よ。あなたの恵みは、
なんと尊いことでしょう。
人の子らは御翼の陰に身を避けます。」
(詩篇 36 篇 7 節)



私たち人間の大半は、何かにつけて不平を言いたがるという、生まれながらの性質を持っているのではないのでしょうか。私たちは、自分が欲しくても得られなかった物や、望んだのにその通りにならなかった事を、いつまでもくよくよと考え、苦しかった事、

悲しかった事、いやだった事、腹立たしかった事などばかり覚えていて、神が、私たちに与えてくださった限りない慈愛や、豊かな祝福をすっかり忘れてしまっているように思われてならないのです。

自分の思うようにならない事がある時など、私たちは神に対して、つい不平がましく思ったりしてしまいますが、その神が現在までの長い間にわたって、生きるために必要なすべてのものを私たちに与え、私たちの心が悪に向かわないようにと導き、その寛大な御心をもって、私たちの日々の罪を赦してくださいっているのです。私たちの愚かな心は、この事をすっかり忘れてしまっているのですが、これで良いのでしょうか。

このように、取るに足らない私たちですのに、愛なる神は親鳥がその翼でひな鳥を守るように、その大きな御心をもって私たちを守り、私たちが底知れぬ罪の深みに落ちないように、その御手でささえてくださいっているのです。今日も神は、その永遠の愛と、

全能の御力をもって、必ず私たちを導き助けてくださいます。たとえ今現在は病床や悲しみのうちにあつて、苦しみと悩みの時を過ごさねばならなくても、私たちの将来には、主の御約束による輝かしい希望があるのです。

神の不変の愛と恵みによって、私たちは揺るぎない信仰を与えられ、神が常に私たちと共に居てくださることによって、心は平安で満たされるのです。私たちは皆か弱く、罪深い人間なのですが、神の御子イエスが十字架におつきになったことによって、私たちは神に赦され、すべての罪は洗い流されました。

父なる神を信ずることによって、日々に犯す罪がすべてぬぐい去られ、きよめられるとは、私たちの魂は何としかあわせなことでしょうか。私たちにとって、ただ苦難としか感じられないこの病床や悩みも、実は神が私たちの魂の生まれかわりのために与えてくださった、祝福された心の苗床なのです。

祈　　り

弱い者を助けてくださる主イエスよ。あなたは過ぎし昔、人々の中を歩まれて、苦しむ者、病める者をなぐさめ、身体と心に悩みを持つ者をお救いくださいました。

どうか今、苦しみの内にある私の傍らにいて、私の苦しみを取り除き、私の魂をきよめ、慰めをお与えください。いつまでも苦悩の日を過ごすことなく、耐え忍ぶ力を与え、すべてのわずらいから解き放ってください。

救い主イエスよ。どうか私の苦しみをいやし治そうとしている人々に、祝福をお与えください。あなたの愛と助けが無限であることを信じて疑わない信仰を、私にお与えください。　アーメン。

主は私たちの名を呼ぶ

「私の悩みと労苦を見て、
私のすべての罪を赦してください。」
(詩篇 25 篇 18 節)



私たちの住
む地上に、こ
れほど多くの
悩みと苦しみ
が満ちあふ
れているのを
神は御存知
なんでしょう
か。そして地
上に生きてい

るだけでも、何十億という人が生活しているのに、その中から私が神を呼んでいるのを御存知なんでしょうか。このように思いわずらう私たちの心に、神はその御言葉の中で「わたしはあなたの名によって、あなたを呼

んだ」と、はっきりおっしゃっています。

イエスが十字架につけられた後、その復活に疑いの念をいだいていたトマスに向かって、イエスは「トマスよ、信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と言われました。また墓の中のイエスのなきがらを見失って、嘆き悲しんでいたマグダラのマリヤに「女よ、なぜ泣いているのか」と言って、その復活をお示しになりました。永遠に生きておられるイエスは、同じような疑いをいだく人たちに向かって、神が常に私たちのすべての悩める魂と共にいてくださることを、約束なさっているのです。

しかし、以前に心の中で、神の存在を疑った時があったことなどを思い出すと、私たちは神に近づくことができるのでしょうか。もし、十字架によるキリストの犠牲的な愛がなければ、私たちすべての人間は聖なる神の御前に出ることを、恐れなければならなかったことでしょう。けれども、神の最愛の御子イエスの死によって私たちの罪は赦

され、いま私は恵み深い神を、父と呼ぶことができるのです。

私たちが御前に近づいて心から祈るとき、神はその御心のままに私たちの苦しみを、御手をもって取り除き、大いなる愛をもって私たちを包んでくださるのです。たとえ病や悲しみの苦痛がなお続くとしても、神が共にいてくださることを知って、私たちの心が平安に満たされれば、その苦痛もどれほど耐えやすくなることでしょうか。

どんなに苦しみが続く時でも、神は御恵み深く私たちを見守りながら、励ましてくださり、どんな暗黒の中を歩まねばならない時でも、神は一条の光を与えて私たちを導いてくださるのです。私たちがこうして病や苦難の中にある時も、神がその優しい御心をもって、絶えず見守っていてくださるからこそ、私たちは安心して眠り、思いわずらわずに休んでいただけるのです。

祈　　り

神さま、今日もまた肉体と魂とに負い切れない程の苦悩をもって、あなたの御前に参りました。どうか主の恵みの御手をもって、この恐れと苦しみとを私から取り除き、この日も私を憂いなく御手の内に休ませ、やがて訪れる夜も安らかに眠らせてください。

病の床にある私たちや、私たちを看病してくださる方々といつも一緒にいてください。私たちの病める身体に健康を取り戻させ、私たちの魂をあなたの赦しの恵みのうちにお守りください。

救い主イエス・キリストの御名によってお祈り致します。　アーメン。

命よりもまさるもの

「あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、
私のくちびるは、あなたを賛美します。」
(詩篇 63 篇 3 節)

この世の中には
いろいろな生き方
があるものです。一
日に三度の食事を
し、何も考えずに
日々を送り、夜が来
れば寝てしまう。こ
のように、ただ生き
ているというだけの生き方もあります。しか
しこれは、本当につまらない生き方と言わ
なければなりません。なぜかと言えば、この
地球上の世界にも、もっともっと良い生き方
があるからです。

衣食住が十分に与えられ、物質的に何
ひとつ不自由のない生活を送っていても、



それが最上の幸福とは申せません。物質的に豊かであっても、そのことによって、私たちの心から、悩みや悲しみをぬぐい去ることは、決してできないことなのです。奴隷でさえも、衣食住は与えられていました。それだからと言って、奴隷のような生き方に満足したり、衣食住さえ与えられればそれで良い、と希望する人が一人でもいるでしょうか。

それでは、もっと良い生き方というのは、一体どんな生き方かと申しますと、それは聖書を通して私たちに示されている神の御言葉によって生き、神の愛と義の中に、真の人生の意義を見いだして行くような生き方なのです。私たちすべての人間の父である神は、最愛の御ひとり子イエスを十字架におつけになることによって、私たちのすべての罪を赦してくださいました。そのような深い愛の御心を持っていらっしゃる神は、今もなお私たちを限りなく豊かな慈愛をもって包み、私たちが生きるために必要

なすべてのものを、御心のままに用意し、また心身の病に苦しんでいる私たちを、その御心によって健康に立ち返らせてくださるのです。

こうして、私たちの塊に、真の平安と希望とが満ちあふれて来れば、苦難の人生を送って行く上でなんの不安も恐れもありません。不安定な物質にたよる人生より、神の御言葉に生き甲斐を見いだす人生の方が、はるかに正しく有意義であることを信じ、心から神に祈り、神を賛美し、神の慈愛に感謝しつつ生活して行けば、希望に輝く私たちの心から、自然に美しい歌も流れ出すことでしょう。

たとえ苦難や病床にあっても、私たちは神の愛の御手に抱かれ、昼も夜も全能の神に見守られているのです。身近の小さな出来事に神経をいら立たせずに、常に明るい希望を持って神の御胸に安らうことこそ、病床や苦難の内における正しい人生なのです。

祈　　り

私の魂の永遠の救い主であられる主イエスよ、あなたの憐みの御心に感謝しつつ御前にひざまずきました。

あなたは私のすべての罪を赦し、日々悩み苦しみに直面する私を信仰によって勇気づけ、耐え忍ぶのに十分な力をお与えくださいました。どうか私の心と魂に平和を満たしてください。あらゆる失意と苦悩とを私の心から取り去ってください。今日一日、またあらゆる時に、希望と慰めとをお示ください。

救い主、主よ、私の願いを聞き入れてください。 アーメン。

あなたの荷を主にゆだねよ

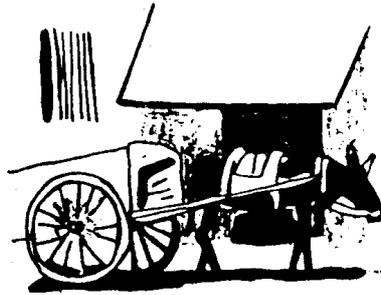
「あなたの重荷を主にゆだねよ。

主は、あなたのことを心配してくださる。

主は決して、正しい者が

ゆるがされるようにはなさない。」

(詩篇 55 篇 22 節)



私たち
の人生は、
重い荷を
担って、
危険なけ
わしい道
を歩いて
行くような

ものです。その荷は一人で担って行くには、
余りにも重すぎます。しかし神はそのことを
よく御存知なのです。それだからこそ、聖
書の御言葉が「あなたの重荷を主にゆだ
ねよ」と私たちに教えているのです。

その御言葉に従い、重荷を神にゆだねることによって、すべての悩みは羽がはえたように飛び去り、思いわずらう私たちの心は、はじめて平静を取り戻せるのではないでしょうか。常に神がささえていてくださると信じながら、日々刻々に過ぎ去って行く時間を、私たちは強い信念をもって、生きて行くことができるのです。

地球上のすべての人の一生は、生まれてから死ぬまで、さまざまな苦勞と心配の連続なのです。キリスト教徒としての希望を心に持たない人にとって、この人生のさまざまな問題を切り抜けながら生きて行くということは、たとえようもない苦しみに相違ありません。さまざまな苦難があったり、病弱の身である人にとって、この人生の旅路を歩んで行くというだけでも、その重荷は本当に容易なことではないのです。

私たちは神の御力によらなければ、この重荷を自分ではどうすることもできませんし、神から平安を与えられるのでなければ、こ

の苦悩を和らげることはできません。この世のすべての苦悩は、みな私たち人間の罪によって生ずるものだからです。その苦悩の原因である罪を取り除いてくださった主イエスを信じることによってのみ、私たちは真の平安を神からいただけるのです。

神は人間のすべての罪を、最愛の御子イエスの死によってあがなわれ、私たちを神の家の子としてくださいました。もう何者といえども、神の愛の御子から私たちを奪い去ることはできません。十字架のイエスによって、神のゆるしを得た私たちは、人生に伴うすべての重荷を、神にゆだねることによって、神の御前に静かないこいの時を送ることができるのです。日々新たな祝福を苦難の中にも与えてくださる神に、頼りきって生きて行くことによって、いばらの人生に芽ばえたこの平安は、次第に大きく確実に育てられて行くのです。

祈　　り

常に愛のまなざしをもって、私たちを見守ってくださる聖なる恵みの救い主よ。どうか日々の重荷を私から取り除いてください。すべてのわずらわしい困難な問題を、私の心から取り去ってください。

患難にあっただつ神経を鎮め、主の平安を私の心にささやいてください。来る日も来る日も、あなたの赦しの恵みの確かさを、お与えください。どうか私の家庭を祝福し、私たちすべてに喜びを満たし、大いなる信仰と、満ちあふれる恵みによって、豊かな人生を送らせてください。

あわれみ深い友である主キリスト・イエスよ。貧しい私の祈りを聞きいれてください。

アーメン。

わが魂は主の^{おおにわ}大庭を^{した}慕う

「私のたましいは、主の大庭を恋い慕って
絶え入るばかりです。私の心も、身も、
生ける神に喜びの歌を歌います。」

(詩篇 84 篇 2 節)

はたしてこの
世に神は存在
するのでしょうか。
病気や他のあら
ゆる困難に直面
した時に、心の
中にこのような
疑問をいだいた
ままで、その苦
難を耐え忍んで
生きて行くことは、
容易なことではありません。



詩篇を開いて見ますと、19 篇に「もろもろ
の天は神の栄光をあらわし」と書いてありま

す。その言葉の通り、空に輝く星、さえずる小鳥、咲きにおう花、これらのすべてが神の存在を物語ってはいるのですが、それにもまして、聖書と御ひとり子イエスを通して、神はその存在を私たちに対して、はっきりお示しになっているのです。イエス・キリストも、御自分が父なる神の御意志によって、この地上の世界につかわされたことを、御告げになっていらっしゃる。もし、神がこの世に存在しないと仮定するならば、イエスの降誕も十字架も、すべてが意味をなさず、私はその事実をどのように考えれば良いのかわからなくなってしまいます。

私たちにとって、神はいなければならぬものなのです。私たちは神の御心のままに生き、神の御導きによって、日々の生活を送らなければなりません。イエスが十字架におつきになったことによって、神は私たちの罪を赦してくださいました。私たちはこの神を信ずることによって、周囲に満ち満ちているさまざまな困難や、心を悩ます

思いわずらいから、はじめて解放されるのです。

私たちが自分の罪の意識に苦しみながら、神の御前に祈り、心から神に頼って魂の避け所を求めるとき、イエスのお流しになった尊い血のゆえに、私たちの父である神は、必ず私たちを救ってくださいます。こうして神によって本当の平安を与えられた私たちは、心から神に感謝し、神を賛美せずにはおられないのではないのでしょうか。

私たちの魂が切に求め待ち望んでいるのは、神の福音、神の御約束、神の赦し、神による平安なのです。私たちの心からすべての悩みをぬぐい去り、将来に明るい希望を持たせ、病や患難に苦しむこの身体を健康に返してくださるということは、神でなければできないことなのです。それだからこそ私たちの魂はこの苦難の只中であって、わが救い主にして、わが最良の友でもある神を、呼び続けずにはいられないのです。

祈　　り

永遠に私の魂を御子の中に保ってください
る父なる神さま。この日もあなたの聖なる祝
福を受けるために、私は御座の前にまいり
ました。

あなたの恵み深い御心によって、私のす
べての罪を赦し、いつくしみ深い御手によ
って、私とすべての療友とを健やかにし、
艱難から救いだしてください。

あなたの慈愛によって、この日も希望に
あふれさせ、私の心に勇気をふるい起こさ
せてください。満ちあふれる満足と、忍耐と、
喜びを私にお与えください。

この小さな祈りと願いを、主イエスによっ
て聞き入れてください。　アーメン。

主はわが^{ぼくしや}牧者

「主は私の羊飼いです。」

私は、乏しいことはありません。」

(詩篇 23 篇 1 節)



青空に浮かぶ
白い雲、そしてひ
ろびろとした緑の
野に遊ぶ羊の群れ、
それはこの上もなく
平和な、快い風景
ではないでしょうか。

しかしこの平和は、

羊の力によるものではありません。常に羊を守り、正しく導いている牧者によって、保たれているものなのです。この悩み多い世に住む私たちは、荒野をさまよう羊の群れと、少しも変わりありません。私たちには常に理解と愛情をもって、正しい道に導いてくださる方が必要なのです。

「主は私の牧者である」。天におられる神は、その恵みあふれる愛の御心をもって、一刻も休むことなく私たちを見守ってくださるのです。全能の神を牧者に持つ私たちは、本当に幸福な者と言わなければなりません。たとえ苦しい病床にあつて、高熱や痛みのために、幾日も身を削られるような思いを味わい、悪化する病状のために、幾月もいらだたしさを耐え忍ばなければならないような時でさえも、私たちはやはり、聖なる牧者に愛されている小羊なのです。

イエス・キリストの尊い血によって私たちの罪は赦され、永遠の命を与えられました。私たちは神を信じ、神の恵みの光の中を歩むことによって、この苦難の日にも安心して生きて行くことができます。キリストが十字架におつきになったことによって、神に結ばれている私たちを、もう何者といえども牧者たる神の御手から、奪い去ることはできません。

「私には乏しいことがない」。どろ沼のよう

な苦難の道を歩んで行く私たちと、常に一緒にいらっしゃって、安全で平和な道を示してくださる神は、私たちの求めるものにも気を配って、御心のままに与えてくださるのです。神に導かれ、神によって生きる私たちの魂にとって、恐ろしいものは一つもありません。

「それは御子を信ずる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」。ということをはっきりと知った時、私たちが迎える一日一日は、何と明るく、希望に輝いてくることでしょうか。このようにして、はじめて私たちは、病床から立ち直り、苦しみをのりこえ、力強く生きて行くことができます。私たちはただ一人でこの苦難と戦っているわけではありません。神はいかなる時でも私たちと共にいてくださるのです。

「神は私の牧者である」と言うことを、私たちは疑うことができるでしょうか？ いいえこれは決して疑うことのできない、唯一の真理なのです。

祈　　り

私の魂の主であり、私の身体の守り主である恵み深い救い主よ。私はこの苦しみの中にあって、力と守護と助けを求め、あなたにおすがりいたします。どうか、あなたが常に近くにおいでになり、勇気を与え、あなたの祝福によって私の心に平和を満たしてください。

あなたが私とすべての人の罪の身代わりとして、聖い血を流されましたカルバリーの十字架のゆえに私の罪をお赦してください。

私にさらに強い信仰と勇気とを与え、救い主であり友であり、良い羊飼いであるあなたに、いつもより頼ませてください。

アーメン。

人はいかなる者なので

「人とは、何者なのでしょう。

あなたがこれに心を留められるとは。

人の子とは、何者なのでしょう。

あなたがこれを顧みられるとは。」

(詩篇 8 篇 4 節)



澄みわたった空に輝く
太陽、夜ともなれば、無数
にきらめく美しい星。しか
しこの宇宙は、私たちの目

の届かない、はるか彼方にまで、広がっているのです。その中であって、砂の一粒にも及ばない小さな地球上にさえ、何十億という人が住んでいるのです。こうして、改めてわが身を省みると、それは余りにも小さな存在ではないでしょうか。これらすべての天体にその定位置を守らせ、人間を御心のままに歩ませていらっしゃる神。この偉大な宇宙を創造し、それをお治めになってい

る神が、どうして私たちの悩みや苦しみにまで心を配ってくださるのでしょうか。私たち弱い人間は、ついこのようなことを考えて、思いわずらわずにはられません。

けれども聖書を開いて見ますと、神はその御言葉の中で、そのことについて私たち一人一人にはっきり御約束をなさいました。神は常に私たちの求めている事に心を配り、今直面している問題から一日も早く立ち直って、正しい道を歩めるようにと、見守ってくださるのです。私たちは神の御約束を信じることによって、何ものにもまさって、永遠であり、不変である神に心から頼りきることができるのです。地に落ちる一羽のすずめ、流れる星の一つ一つの動きさえ、すべてが神の御意志によるのであって、決して偶然の結果ではありません。神にとっては、すずめや星よりも苦しみのうちにある一人の人間の方が、はるかに大切なのです。神は私たち人間のために、御ひとり子を地上におつかわしになりました。

御子イエスは十字架につけられ、命をささげて私たちを罪から救ってくださったのです。イエスの救いによって、全能の神に結ばれた私たちは今、神の御子によってささえられ、神の御心によって愛されています。私たちはただ子供のように純真な気持ちで、神に頼りさえすれば良いのです。それがまことの信仰なのです。そうすることによって、キリストが私たちの心に宿らぬかぎり、私たちは少しの価値もない哀れな人間に過ぎません。

神は今私たちが苦しみながら救いを求めていることを御存知ですし、心から私たちを愛してくださっているのです。最愛の御子イエスを十字架につけられたという事実が、何よりの証拠です。それですから、私たちは永遠に神の御胸に抱かれて、何ごとにも恐れたり、悩んだりする必要はありません。神はきっと私たちを人生に伴うさまざまな苦悩から、その御心によって救ってくださるからです。

祈　　り

御恵みによって私たちを生かし、御憐れみによって私たちをあがなってくださる永遠の主なる神さま。どうか人生の苦しみのうちにある私をかえりみ、今日の悩みを取り除いてください。

愛のうちに平和を、御言葉のうちに希望を、御約束のうちに慰めをお示してください。今ここにあって私を守り、御憐れみによってすべての不安や心配をぬぐい去ってください。すべての罪を赦し、私を御守りのうちに置いてください。

私に生命を与えるためにご自身の命を捨ててくださった、救い主イエス・キリストの貴い御名によって、お願い致します。

アーメン。

わが岩、わが^{あがな}贖^{ぬし}い主

「私の口のことばと、私の心の思いとが、
御前に受け入れられますように。

わが岩、わが贖い主、主よ。」

(詩篇 19 篇 14 節)

病に倒れ、苦
難に出合って、
人の力ではどう
することもでき
ない時に、私た
ちはこの上なく
正義に富み、
そして全能なる
神を、思わずに
はわれませ



ん。けれども、この崇高にして偉大なる神を
仰ぎ、振り返って、罪深く愚かな自分を見
つめていると、私たちは心の中で思うことや

欲することを聞き入れてくださいと、神にお願いする勇気を失ってしまいます。

しかし、自分から言い出せなくて迷っている時でも、神が呼びかけてくだされば、私たちはその失った勇気を取り戻すことができますと思います。聖書を開いて見ますと、その福音を通して御約束なさっているように、神はこの試みの多い世の中であって、私たちの不安や、その求めていることについて、常に心を配ってくださるのです。

私たちがどんなに罪深く、また神を粗末にするような恥ずべき行いをした後でも、心から悔い改めて御前に祈れば、神は決して私たちを見放すようなことはありません。私たちの友であり、救い主であるイエスの尊い血によって、私たちの罪はすべて赦され、神はその罪のゆえに私たちを責めることはないのです。

御ひとり子イエスによって、私たちを罪から救ってくださった神は、私たちの心が、常に平安によって満たされていることを、望ん

でおられます。神が与えてくださるこの平安が心に満ちあふれるとき、たとえ身は病床や苦難のうちにあっても私たちは、母の胸に抱かれる幼児のように、神の愛に包まれて安心していただけるのです。

私たちの父である神は、その子である人間が願うことを喜んで聞き入れてくださり、私たちが悩みの時にも、苦しみの時にも、神の御恵みを求めて心から祈るようにと、待ち望んでおられるのです。私たちが神を信じて、ひたすらに願えば、神はその慈愛に満ちた御心のままに、私たちを病や悲しみの苦悩から解放し、心の重荷を取り除いてくださいます。

このようにして、神の全能の御力に励まされ、神の愛によって生かされる私たちにとって、現在にも将来にも、恐ろしいものは何也不会ありません。

祈　　り

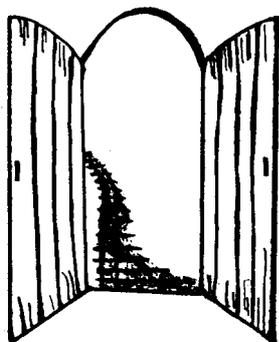
義であって、恵みに富んでおられる父なる神さま。時間も永遠もあなたの御手のうちにあります。病と苦しみの時にあなたを仰ぎ、あなたを私の力、私のよりどころとしています。試みの多いこの世にあって私をお助けくださる神さま。どうかいつまでも私と一緒にいてくださり、毎日を光と喜びにあふれる時としてください。あなたはイエス・キリストによって、私の罪をお赦しくださる神さまであることを存じています。日々私の魂をきよめ、私の心からすべての不安を取り去ってください。いつも、ただあなたに頼ることをお教えください。すべての病や苦しみにある友と共に、私のすべてをあなたにゆだねる事ができますように、イエスの貴い御名によってお願い致します。　アーメン。

神はわれらの避け所

「神はわれらの避け所、また力。

苦しむとき、そこにある助け。」

(詩篇 46 篇 1 節)



自分ひとりの力では、どうすることもできないような苦難に出会った時、私たちは、助けを求めずにはいられませんが、それがどのような

な災難にせよ、必要な時に間に合わない助けは、全く何の役にも立たないものです。私たちが身に降りかかって来た苦難に困りはてて、神に助けを求めるとき、神はその御心によって必要と認められた場合には、即座に私たちを助けてくださいます。

この苦難に満ちた長い人生にあって、私たちがすべてのものから見離されてしまったように思われる時でも、神のみは常に共にいてくださり、私たちを保護してくださっているのです。「神はわれらの避け所」と救いを求めて心から祈ることによって、私たちは神の御前に近づくことができます。神の御前に進むところにある門は、イエスの御手によって常に私たちのために開かれているからです。

私たちが過去に犯した罪やあやまちが、どんなに大きくても、そのためにこの門が閉ざされることはありません。なぜならば、神の御ひとり子イエスの尊い血によって、私たちはすべての罪の汚れからきよめられているからです。それゆえ私たちは、自らの罪や愚かさのために、神に近づくことを恐れる必要は少しもないのです。

この苦しみと悩みに囲まれた、絶望的な時にも神は私たちのかたわらに立って、必要な力と元気とを与えてくださいます。私た

ち人間は、明日のことさえ何一つ知ることはできません。けれどもただ一つだけ、確信をもって言えることがあるのです。それは“神は明日も私たちと共にいてくださり、私たちを助け導いてくださる”ということなのです。

本当に神はいついかなる時、いかなる事についても私たちの保護者であり、避け所なのです。それだからこそ私たちは、このような苦しい病床や人生にありながらも、神の慈愛に満ちた御心を信じて、耐え忍び、喜びの日の来るのを待ち望むことができます。

神は日々新たなる愛をもって私たちを見守り、その寛容な御心をもって、すべての罪を赦してくださいます。神を保護者とし、避け所として頼って行くことにより、私たちは毎日を明るく、勇気を持って送ることができるのです。

祈　　り

すべてのものと、すべての人とを創造し、これをお治めになる主なる神さま。あなたは今日に至るまで私たちを助け、希望と力とをお与えくださいました。私は御赦しを求め、御守りといやしを求めて、救い主キリストによって御前に出ました。いつも私と共におられ、毎日をやすらかに過ごさせてくださるあなたのいつくしみを憶えて、私の心は喜びにあふれています。

どうか日々の生活につきまとう、さまざまの苦しみを取り除き、あなたの家の子供として、やすらかに御守りください。

私の牧者であり、友であるイエス・キリストの貴い御名によって、お願い致します。

アーメン。

あ と が き

この「希望」の小冊子は、病床にあったり、
様々な艱難や問題に直面して、悲しみや
苦しみを経験している方々のために、神様
からのメッセージである聖書の御言葉を、
ほんの少しだけ説き明かしたものです。

聖書について、あるいはキリスト教につ
いて、もっとお知りになりたい方は、下記の
住所までお気軽にご連絡ください。

〒310-0905
茨城県 水戸市 石川 1-4022-3
宗教法人 ルーテル福音キリスト教会

電話・ファックス 029-251-5204

ホームページ <http://www.lecc.jp/>